

# 空の悪魔（ラヂオ・ドラマ）

岸田國士

青空文庫





酒井欽蔵	(四十八)
妻 いく	(四十五)
娘 加代	(二十四)
息子 鉄蔵	(十八)
娘 美代	(十六)
店員 庄市	(三十)
其他	

解説 東京山の手の裏通りに、さゝやかな店を構へてゐる時計商、酒井欽蔵さかみきんざうの一家、物語の中心はこの一家であります。帝都は既に敵機襲来に備へて、警戒管制が敷かれてゐるのです。蒸し暑い真夏の夜のことです。

店先に並んだ大小幾十の時計が一齐に時を刻んでゐる。やがて、オールゴール入りの眼覚し時計が平和なメロディを奏ではじめる。これは、今、主人欽蔵が店先で修繕をしてゐるのだ。

奥の部屋で

妻いく　　こんな晩に、仕事をする人つてあるか知ら……全く変りもんだよ、お父とつつあんは……。

娘加代　　鉄てつちゃん、もう起しといた方がよかない？ 若もしか、急に出て行くやうなことがあると、晩御飯も食べないぢや、お腹なかを空すかさわよ。

いく　　さあ、お腹もお腹だけど、昨夜ゆうべからあの通り眠つてないんだからね。お握りでも

こさへといてやろうよ。

加代　　なんだか元気がなささうなんだもの。いやだわ、あたし。かういふ時は、もつと勇ましさうにして、くれなきあ、張合がないぢやないの。

いく　　そこへ行くと、兵隊に行つてただけあつて、庄しやうさんなんかきびきびしたもんさ。まるで、お祭へでも出掛けるやうな……。

加代　　さうよ、あれも普通ぢやないけど、鉄ちゃんみたいにしていると、人が変に思ふわね。臆病なんだと思はれてよ。

いく　　臆病かね、あれで……。

加代　　ほんとはどうだかわからないわ。十八の子供にしちやあれで、なかなかつぶと太いところがあるんだけど……五円のお小遣ひきりで、北海道をひとまはりして来るなんて、ちよつと出来ない芸当よ。

いく　　(突然、頓狂な声で) あゝ、びつくりした。いやな美代みよちゃんだよ。そんなもの、今頃からくつつけてどうすんの。

娘美代　　(防毒マスクをつけた声で) 兄にいさんのをちよつと借りたのよ。これをつけて、毒瓦斯の中へ飛び込んで行くんだわ。重いわよ。

いく　また、兄さんに叱られるから……。

美代　（マスクを外して）ほんとに戦争あるの。嘘見たいでしやうがないわ。お父つあん、だつて、あんな平気な顔してお店に坐つてるぢやないの。

欽蔵　（はじめて）お美代……。

美代　なあに？

欽蔵　鉄蔵を起して来い。

美代　よく眠てるわよ。

欽蔵　いゝから起して来い。

時計のねぢを巻く音。オールゴール。

美代が階段を走り上る音。

美代　兄さん。

鉄蔵　……………。

美代　兄さんつたら……。

鉄蔵  
……………。

美代  
可哀さうね。こら、兄さん、起きるのよ。

鉄蔵  
(飛び起きたらしい)

美代  
あら、そんなに吃驚<sup>びっく</sup>りしないだつていゝわ。

鉄蔵  
畜生……………。

美代  
お父つあんが起して来いつて云ふんだもの。

鉄蔵  
おやぢ、なにしてるんだ。

美代  
眼覚しを直してるわ。

加代  
(上つて来て) 鉄ちやん、眠いでせう。

鉄蔵  
当りめえよ。おやぢ、なんの用があるんだい。

加代  
あんた、あんまり元気がなささうだからよ。心配してるんだわ。きつと。

鉄蔵  
やい、マスクをどうしたんだい、こいつ……………入れとけよ。

加代  
お父つあんと喧嘩しちや駄目よ。なに云はれても、ハイハイつて云つてなさい、

(間) 鉄ちやん、なにぼんやりしてんのよ。



鉄蔵、急に起ち上つて、階段を下りはじめる。

鉄蔵 お父つあん、なにか用？

欽蔵 まあ、そこへ坐れ。

鉄蔵 そんな時計、何時だつていゝんぢやないか。それより松田さんの懷中、早く頼むつて云はれてるんだぜ。あの人警報班で、時計がないと不自由だらう。

欽蔵 わかつてる。さつき代りを渡しといたよ。時に、お前からだの具合でも悪いんぢやねえか。

鉄蔵 どうして？

欽蔵 浮かねえ顔をしてるからさ。

鉄蔵 戦争で浮いた顔ができるかい。

欽蔵 出来ないつてのは、生命いのちが惜しいからだ。やい、男なら男らしく、腕つ節をみせろ。日本男児は、理窟を云はずに、悦んでお国のために働くんだ。手前は、防護団の一員ぢやねえか。毒瓦斯班といふ大事な役目を云ひつかつてるんだ。葬式へ参列するやうな面をして、そんな任務が勤まると思つてゐるのか。第一、見つともねえぢやねえか。

鉄蔵 第一、毒瓦斯班なんてものはありやしないよ。防毒班だよ。それから、お父つあんは、僕の面が葬式へ参列するみたいだつて云ふけど、全く、さういふ気がしてるんだ。悲しいやうな、じれつたいやうな、早く云や、面白くもなんともないんだ。

欽蔵 何が面白くねえんだ。

鉄蔵 今度の戦争がさ。文明人なら文明人らしい戦争をしたらよささうなもんぢやないか。

欽蔵 ところが、空中戦なんてえのは、文明が進んだ証拠ぢやねえか。

鉄蔵 抵抗力のない女子供を、空の上からおどかさなんて、全く、強盗か野蛮人の仕業しわざだよ。

欽蔵 そんなこと云つたつてしやうがねえ。だから、その女子供を、われわれ男が……。  
鉄蔵 (夢中で) 僕の声が若し千里先まで聞えるなら「やい貴様達恥を知れ」つて云つてやるよ。

加代 鉄ちゃん、御飯をおあがりよ。

鉄蔵 なんにも食ひたくないんだ。

加代 夜中にまた、お腹がすくわよ。交代は十一時なんだから、まだ時間があつてよ。

鉄蔵　ぢや、食くひ納をさめに食つてやらあ。

敵が攻めて来るからつて、飯が喉へへえらねえやうでどうする。あきれた野郎だ。

沈黙。

波の音に交つて、電話の呼鈴。

「小笠原島東方五キロ、はい聞えます。敵の主力艦隊……はい……航空母艦二隻を有する……はい……千葉監視隊本部へ……はあ……無線電信の故障で……はい……はい、わかりました」

波の音が次第に消えて、再び時計のチクタク。

欽蔵　戦争が好きだとか嫌ひだとか云つてみたところではじまらねえ。だからよ。どうしても戦争をしなければやならんと云ふんなら、勝つより外ほかに道はあるめえ。負けたら最てめえ後おれたちや、犬猫同然だ。手前のやうな、煮えきらねえ男ばかりだったら、それこそ、

勝つ戦もどうだかわからなくなるぞ。

鉄蔵 そんなこと云つて、お父つあん、僕たちや、手の出しやうがないぢやないか。爆弾にしろ、毒瓦斯にしろ、相手は喧嘩にならない代物なんだけ。敵の飛行機は、味方の軍隊がやつつけようとする。それやいゝさ。だけど、僕たちや、地べたの上で、何をしてるんだ。武器を執つて堂々とわたり合ふことも出来ず、たゞ殺されない工夫ばかりしてなきやならないんだ。

欽蔵 それが間違えだ。手前は、自分のことばかり考へてる。なぜ「殺させない工夫」と云はねえんだ。自分を守るんぢやねえ。同胞を守るんだ。帝都を守るんだ。日本といふ国を守るんだ。そんなことがわからねえのか。

鉄蔵 わかりすぎるくらゐわかつてるよ。僕の云ふのは、なんのために働くかといふことぢやない。同じ働くにしても、受身ぢや張合がないと云つてるだけだ。

欽蔵 なんだ。張合がねえ！

鉄蔵 言葉は悪るいかも知れないよ。ぢや、なんて云つたらいゝかな。

欽蔵 なんにもいはないのが一番いゝ。

鉄蔵 だから、僕は、なんにもいはずにゐたんぢやないか。お父つあんが、余計なこと

を訊くからさ。僕は、空元氣からげんきをつける必要はないんだ。

欽蔵　みんなが気もちを揃へようと思つたら、ちつたあ、大きな声ぐらゐ出すもんだ。

鉄蔵　ヨイトマケ、ヨイトマケつてかい。

欽蔵　畜生、このおれだつて、何時いつまでも、ちつとしちやゐねえぞ。防護団の連中に欠

員が出来たら、何時でも出掛けてくから、手前てまえさう伝へてくれ。

鉄蔵　そんなこたあ、云はなくつたつてわかつてるよ。

加代　食べたくないなんて、随分食べるぢやないの。

美代　兄さん、お弁当つけて何処へ行くの……。

鉄蔵　おつ母かさん、服部はっとりの息子ね、僕と同じ班なんだぜ。昨日、戦友ちぎりの契を結ぼうな

んて、レモン・テイイをおごりやがった。あいつ、センチだからなあ。

美代　もう、頭髪あたまわ分けてんのね。

いく　あんな大きなお店でも、息子さんが毒瓦斯の組へはひりなさるのかね。

鉄蔵　鼻きの利くやつがとられたんだよ。試験にパスしたんだからしやうがないや。

美代　あら、どんな試験？

オールゴールの音が次第に消え、波の音がだんだん高く聞え出す。犬吠崎附近の海岸監視哨。波の音。

A 来たぞ、来たぞ。

B 待て、落着いて聴け。

C 距離は？

A 確かにさうだ。ちよつと、測<sup>はか</sup>つてくれ。

B 懐中電燈を見せろ。

C おい、伝令。

電話の呼鈴。

声 銚子第二監視哨報告……午後八時五十分、東北二千五百、重爆三機、高度三千、海岸に沿ひ南進す。

電話の呼鈴。

別の声

東<sup>とうがね</sup>金<sup>かね</sup>防空監視隊本部報告……午後八時五十二分、鳴<sup>なる</sup>浜<sup>はま</sup>東方三千、重爆三機、

高度二千五百、九十九里海岸に沿ひ南進……………。

電話の呼鈴。

別の声

関東防衛司令部ですか。こちらは、千葉監視隊本部です。

電話の呼鈴……（前の文句に重つて）

防衛司令部

A別の声

警報係！ 非常燈火管制……………。

B別の声

こちらは防衛司令部です。司令官命令、各部隊は戦闘配備に就け。

C別の声

飛行隊は速<sup>すみ</sup>かに出動せよ。

D別の声　　消防、防毒機関、直ちに警戒配備につけ。

これに重ねて、遙かに砲声。砲声が消えると、もとの、時計のチクタク。

加代　　あゝ、さうさう、さつきお父つあんの留守に、あの方が、ほら、予備の少将つて方がいらしたわ。時計はまだ出来ないかつて……庄さんもゐないし、あたしぢやわからなかつたの。

欽蔵　　ありや、ヒゲが錆びてたから取替へたんだ。今時間の調節をしてゐるとこなんだが、二三日待つて貰ふよりしやうがねえ。畜生、手がふるへてやがら。敵の飛行機なんかちつとも怖かねえが、どうも、空襲つてものにや慣れてねえからなあ。

急にサイレンの音。

美代　　あ、電気が消えたわ……。

加代　　ちつとしといで。



いく また点いた。なんだい、あのサイレンは……。

美代 来たんだわ。飛行機が来たんだわ。

いく ちよいと、あんた……ほんたうですか。

欽蔵 静かにしろ。雨戸はしめたか。

加代 二階の電気。

サイレンの音に交つて、（空襲、空襲）とさけぶ警報班員の声。  
某地点にある照空隊長の号令。

ていゐ  
定位に就け。

目標、東方上空の爆音。

航速四十。

運転始め。

せうしや  
照射用意。

照空隊分隊長の号令。

A 第一分隊 聴<sup>ちやうおん</sup>音よし。

B 第二分隊聴音よし。

C 航速四十。

A 運転始め。

(発電自動車の機<sup>エンジン</sup>関の音)

A 照射用意、送電。第一分隊点<sup>てんととう</sup>燈よし。

B 第二分隊点燈よし。

照空隊長の号令。

統一照射<sup>せうしや</sup>。

十秒照射始め。  
用意、測れ。はか

照空隊分隊長の号令。

- A 統一照射、十秒照射始め。
- B 用意、測れ。
- C 零五二、四三れい（射手の報告）
- A 照射。

照空隊長の号令。

目標発見。

目標追隨。

聴音機は東方上空を警戒せよ。

高射砲隊長の号令。

目標、東方上空の射光内しゃくわうないの重爆。

高度千二百。

始め。

航速十秒。

航路角かく五百。

五発。

（砲声続いて五発）弾丸を装填する音。発射。弾丸の空気を裂く音。爆裂する音。葉莢の落ちる音。飛行機の爆音。機関銃の音（空中戦に於ける）やがて凄じい爆弾の音。悲鳴。その余韻に続いて、再び、時計のチクタク。

欽蔵　出掛けるか。よし、しつかり頼むぞ。

鉄蔵 姉さん、水筒……。

加代 気をつけてね。

美代 兄さん……。 (泣声になる)

また、爆弾の音、続いて二つ。

美代 お父つあん……。

欽蔵 大丈夫、大丈夫……。

爆弾、砲声、機関銃、プロペラの音、しばらく止ま<sup>や</sup>ず。あちこちに、悲鳴が聞える。警報班員及び交通班員の声。

警報班員A なるべく家の外に出ないで下さい。

交通班員 避難者は道路の右側をあけて下さい。

消防自動車のサイレン。呼子、拍子木。

B 第二小学校附近に毒瓦斯弾を投下しました。防毒マスクを用意して下さい。

C この辺は風かざしも下ですから、急いでマスクをつけて下さい。

A 早く用意をして下さい。

避難する群集の騒音。

加代 鉄ちやんの組が行くんだわ。

いく 防毒班ついていへばさうだね。あのマスクをしてゐれば、大丈夫なんだろう。

欽蔵 鉄のことはどうでもいゝ。早く、お前たち、マスクをかけろ。糊刷毛は何処へや  
った。

表の戸をたゞく音。

欽蔵 なんですか。

声 旦那、わたしです。 しやういち 庄市です。

欽蔵 あゝ、庄さんか、どうしたい？

庄市 どうも、この辺は危いですよ。避難した方がよささうです。猛烈な毒瓦斯らしいです。普通のマスクぢや、駄目と見えて、ばたくやられます。

欽蔵 何処へ避難するんだい？

庄市 ですから、わたしが御案内します。早く、みなさん出て下さい。

群集の叫び声、砲声に交つて、愈々はげしくなる。

欽蔵 やめたよ、庄さん、おれたちは動くまい。行つた先でまたやられやおんなじことだ。それより、救護班の方は忙がしかないかね。

庄市 あゝ、忙がしいには忙しいやうですが、救護班も今、避難準備をしてゐるところです。なにしろ、一度にどつとやつて来たもんですから……。

欽蔵 よし、おれはそつちへ行くよ。 あさひいちば 旭市場だつたね、救護所は……いゝから、君は

ほかを廻れ。おい、お加代、あとを頼むぞ。

加代 お父つあん、あんたみたいな半病人が行つたつて、なんにもならないわよ。

欽蔵 馬鹿吐かせ。子供をおぶふぐらゐのこたあ、おれにだつて出来ら。

加代 ひとで人手が足りなければ、予備班つていふのがあるんだから、お父つあんなんか行つ

たつて、追ひ返されるだけよ。

直ぐ近くに、爆音。美代をはじめ、女共のけたゝましい悲鳴。

庄市 あ、飛行機が落ちた。

欽蔵 敵のか。

庄市 さあ……あゝ、燃える、燃える。こりやいけない。

加代 どこ？ どこ？

しばらく、砲声と、プロペラの爆音。群集のどよめき、電話の呼鈴。



声 防衛司令部参謀です。敵機主力は千葉方面に一部は東京湾に向つて退却。友軍戦闘機は、これを急追中でありませす。は？ いえ、まだ、そつちの方面からは情報が上がリません。は？ あゝ、さうですか、敵の航空母艦、艦名はわかりませんか。それや御目出度う。いえ、大したことはありません。

電話の呼鈴。

声 しもだ 下田監視哨報告。三十機以上より成る敵の爆撃機編隊はその先頭を以て、只今、大お  
ほしま 島南端上空を北進中。高度三千。

電話の呼鈴。

別の声 海軍飛行隊の一部は直ちに出勤、大島の上空に於てこれを邀撃せんとす。

電話の呼鈴。やがて、底鳴りのやうなどよめきの中に、時計のチクタク。警報

班員の声。

A 敵機は退却しました。しかし、まだ油断はできません。非常管制を継続します。

B 救護所の手は揃ひました。却つて混雑を出しますから、もうどなたも手伝ひを御遠慮下さい。

C 毒瓦斯は空気より重いのですから、縁の下へ逃げ込まないで下さい。臭ひがしたら、取りあへず、濡れ手拭で鼻をおさへて下さい。

欽蔵 それみる、なんでもありやしない。万事早く片づくところはえれえもんだ。おい、かうして、もしやうがねえ。仕事台をこつちへ持つて来るから、お加代、ちよつと手を貸してくれ。

いく こんな明りあかで。あんた……。

欽蔵 黙つてろ。駄目だよ、そつちをそんなに持ち上げちや……ほら、ピンセットがおつちちた。どつこいしよつと……坐蒲団をよこせ。こら、お前たちも、うろうろしないで、針仕事でもしろ。

いく 戯じょうだん談だんぢやありませんよ。ほんとに、そんな呑気な真似して、いゝんですか。

加代 いゝぢやないの、お父つあんはお父つあんで、したいことをさせといてあげたら……あゝしてないと、気が落ちつかないのよ。

美代 あたし、御不浄へ行つてもいゝか知ら……。

加代 いけないわよ。

いく 馬鹿だねえ。さつさと行つといで。明りを点<sup>つ</sup>けつぱなしにしちや駄目だよ。

欽蔵は、また眼<sup>めざまし</sup>覚の修繕にかゝつたらしい。ねちを巻く音。やがて、例のオールゴールのメロデー。

いく 鉄ちやんはどうしてゐるだらうね。

加代 ひとなみ人並のことはするわよ。

いく どういふもんだろね。息子が戦争に出る時、母親はこんなぢやいけないと思ふんだけれど、やつぱり、普通の気になり方と違ふんだから……。

加代 だつて、おつ母<sup>か</sup>さん、鉄ちやんばかりが危い目に会ふんぢやないわよ。あたしたちも戦争の真<sup>まんなか</sup>中<sup>か</sup>にゐるのよ。

いく　それやさうだけでもさ。あの子は、毒瓦斯の中へはひつて行くんだつていふぢやないか。それに、なんといつても家の中うちとは違ふからね。

欽蔵　うるせえな、そんなお袋だから、鉄みたいな愚図々々ができちまふんだ。

いく　それや、あたしだつて、あの子の前でこんな事云やしませんよ。

欽蔵　思つてゐることは顔色に出る。

いく　思つてゐることだつて、それが全部ぢやありませんからね。あの子が立派な働きをしてくれゝばいゝ、さうも思つてゐるんですよ。

欽蔵　立派な働きをして……まあ、どうでもいいや、そんなこたあ……おい、お加代、

表の戸棚へはひつてゐる油砥石あぶらといしを持つて来てくれ。それと、序ついでに、機械止きかいどめの捻廻ねぢまはし

……。

加代　表ぢや、まだ人が騒いでるわよ。いやだ、誰か大きな声で泣いてるわ。

その泣声が次第に聞えて来ると、それがまた、だん／＼遠ざかる、救護所である。様々な声。うめき声。

男A 重症患者は、向うのテントへ運んで下さい。

男B もつと担架を持つて来なくつちや駄目だぜ。

女甲 今、先生が見えますから、少し我慢なすつて下さい。

女乙 あら、困るわ。今こゝへ置いた繃帯、誰が持つてつたの。

女丙 ちよつと、オキシフル、もうないぢやないの。

女甲 先生、先生、この方かたを早く診てあげて下さい。

女丁 いけません。勝手におはひりになつてはいけません。あとでお会はせします。治

療の邪魔になりますから、一切面会は禁じることになつてゐます。

患者 あ痛い、痛い、痛い……あゝ、苦しい。

その声がかすかに消えると、けたゝましい電話の呼鈴。

声 おほいそ 大磯監視哨報告、三機より成る敵の軽爆撃隊は驚くべき快速力を以て、大磯上空を通過せり。高度二千、北進。北進。

防衛司令部参謀の声 おい通信手、横浜地区司令部へ接続。

遙かに機関砲の音。やがてサイレン。

高射砲隊長B　　目標、西方上空の射光内の軽爆。

プロペラの爆音。

「高度二千」

「始め」

「航速十五秒」

「航路角六百」

「六発」

（砲声六発）

喊声とも悲鳴ともつかぬどよめき。

防護団分団本部長A 毒瓦斯弾無数に投下さる。警戒せよ。

B 防毒班、防毒班。

C 第一班、出動準備。

D 第二班、準備。

E 第三班。

F 旭市場あさひいちばの附近だ。救護所だ。

その声の上にかぶさつて呼子拍子木。機関砲の音。

救護班員C 患者を運び出せ。

D 風の方向は？

E 東南……………。

D ようし、避難所は佐竹子爵さたけししやくの邸内。

C 慌てるな、慌てるな。

F 防毒班はまだ来ないか。

C 救護班の予備班徴集。

女甲 さ、しつかりつかまつて下さい。

D 担架々々。

E 軽症患者は歩かせろ。

女患者B とても駄目だわ。もう呼吸いきが、あゝとても苦しいわ。

D しつかり、しつかり。

E 眼をやられるぞ。

女患者D 早く連れてつて下さあい。子供を子供を……。

その声がかすかに消えると、それにかぶせてかすかな砲声、時計のチクタク、  
オールゴール。

加代 美代ちゃん……ちよつとこゝしばつて……あゝ袂たもとが面倒臭いなあ。お父つあん、  
今度こそは、こゝにゐちや駄目よ。



欽蔵 やかましい奴だなあ、さつきも庄市がさう云ひに来たちやないか。消毒薬がともよく効いて、こんなことなら毒瓦斯はちつとも怖くないつて……第一、まだ臭ひもなにもしやしないぢやないか。軍隊は強いし、防護団の諸君はなか／＼訓練が行届いてるし、われわれ非戦闘員はなるだけちつとしてゐて、お互にぶざまなところを見せ合はない方がいゝんだ。その代り、いざ手があるととなつたら、どんなことでも引受けるさ。いく なんだい、あの騒々しい音は……。

警報班員の声。

A 只今、旭市場前に毒瓦斯弾が落ちましたが、この辺は避難の必要ありません。救護班の第一予備員の方は、至急マスクをつけて、旭市場救護所へお集り願ひます。

いく 加代ちゃんのかい。

加代 あたしは第二よ。

警報班員の別の声。

B 救護班第二予備員の方は、至急佐竹子爵邸仮救護所へお集り下さい。

加代 第二ですか。

B さうです、佐竹子爵邸ですよ。

加代 はい、わかりました。きつと救護所の引越しだわ。

いく たび足袋をはいといでよ。

美代 ねえ姉さん……………。

加代 行つて参りまあす。

欽蔵 さうく、さう来なくつちや。

戸の開く音。戸外そとのどよめきが流れる中を、草履ざうりの音を高く、加代は走り出す。  
消毒液を撒布する音。

防毒班A やあ、まだこの辺は臭いぞ、みんな来てくれ。

B 家の中が大変だ。

C 逃げ遅れたものはるないか。

D おい、酒井君、何処へ行くんだ。

鉄蔵 君達、その辺を頼むぜ。まだ奥の方が残ってるから、僕ちよつと行つて見てくらあ。

酒井鉄蔵は、かうして、ある長屋の路地へ進入して行く。

鉄蔵 おや、誰か倒れてるぞ。もしく、どうしたんです。小母<sup>をば</sup>さん、マスクはないんですか。早く逃げなきや駄目ですよ。弱つたな。もう起てないんだね。待ち給へ、おい、救護班……救護班来てくれ。苦しいの。さうく、喉が苦しい。ぢや、しかたがない。僕のマスクを貸してあげよう。さ、その代り大急ぎだ。フウ……フ……いゝですか、しつかりおぶさつて下さい……（咳入る）……うむ。……

鉄蔵は、老婆を負つたまゝ、その場に倒れる。

A 今、誰か呼んでたやうだぜ……こんなところは、いゝ加減にしかうよ。酒井君はどうしたんだい。しやうがないなあ、一人で行つちまつちや……おゝい、酒井君……鉄蔵君……。

高射砲の音、遥かに……やがて、遠くで（万歳）といふ歓声。

B C 酒井君……鉄蔵君……。

女の声（無論加代である）

加代 あなた、服部はっとりさんのお息さんでしたね。鉄蔵がどうかいたしましたんですか。  
A 暗くなつてよくわからないんですが、探してるんです。たつた今、一緒にゐたんですけど、なんでも、この奥へ入つて行つたらしいんです。駄目ですよ、まだ毒瓦斯が残つてゐますから……。

B お待ちなさい。今、消毒薬を撒きますから……。

機関銃の音。続いてまた（万歳）といふ声。

加代 ああ、あの黒いのはなんでせう？

A 懐中電燈をつけませう。

加代 あ、鉄ちゃん……鉄蔵ですわ。鉄ちゃん……どうしたの……こんなところで……。

B 無茶だ、こいつ、マスクを脱ぐなんて……。

C 酒井君……（半ば憤り）このお婆さんは一体、だれだい？

加代 鉄ちゃん、あんたは、この人を助けようと思つて……。

機関銃の音、ひとしきり。やがて、この音に交つて、電話の呼鈴。

もし、もし、こちらは大島監視哨であります。わが海軍飛行隊は、敵機十数機を射落し（電話の呼鈴）残余十三機は一斉に白旗を掲げたるにより、（電話の呼鈴）これを波浮はぶし港外に誘導着水せしめたり。終り。

この報告は二度、電話の呼鈴で遮られ、次第に低く聞える。これに代つて、時計のチクタクがはつきり聞えて来る。

欽蔵 どうも御苦労様でした。加代は、すると一緒に救護所の方へ行つて居りますんですな。

防毒班A えゝ、あちらへは、どなたもおいでにならないやうにつていふ御言伝おことづてでした。

欽蔵 駄目ときまつたなら、遺骸はすぐにこちらへ、引取らしていただきませうか。

A声 さあ、僕にはよくわかりませんが……その事だけなら、お伝へして置きます。

欽蔵 何分よろしく。

戸を閉める音。

美代 お父とつつあん。

欽蔵　馬鹿野郎！　その面はなんだ。今は戦争ぢやねえか。貴様たちは、大体、生きてゐてなんになるんだ。かういふ時は、死ぬのが当り前ぢやねえか。畏れ多い事だが、上御一人に御障りさへなければ、日本国中、誰一人、死んぢやならねえといふ人間はねえんだ。畜生め、承知しねえぞ。

欽蔵は、やけに時計のねぢを捲く。戸の開く昔。人声。

加代　お父つあん。鉄ちやんを、連れて来ましたよ。おつ母さん、蒲団を敷いてやつて下さい。

沈黙。時計のチクタク。

遠くで万歳といふ声。電話の呼鈴。

東金監視隊本部報告。両翼を大破せる敵重爆一機、只今、九十九里海岸片貝町の海上に不時着。直ちに、その乗組員四名を捕虜とす。なほ、他の一機は、同町二千米の沖

合に墜落せるものゝ如く、搜索の結果、遂に機影を発見せず。

時計のチクタク。

欽蔵 白いきれはないか。

加代 今ガーゼを出します。おつ母さん、金盥かなだらひに水をくんで来て頂戴。それから美代ちゃん、二階の机の上の花瓶から桔梗ききやうの花を二つぬいて来て……萎しをれてないのをね。

近所からのラヂオが聞え出す。

J O A K ……こちらは東京放送局であります。只今から、東京防衛司令部発表のニュースを放送いたします……今夕こんゆふ、八月八日午後八時五十五分、同じく九時二十分の二回に亙り、帝国の領土上空を襲ひたる敵機は、総数合せて三十六機、疾風暗黒の夜に乗じて巧たくみに我が攻撃を避け、遂にその数機は、帝都中心圏内に侵入して、若干の損害を与へたるも、天佑、海陸皇軍の作戦を利あらしめ、市民並に隣接諸県官民の沈着剛毅、よく



非常防空の実を挙げ、茲に、第一回空襲の敵機を文字通り撃滅し得たり……。

この放送の終わらない中に、軍楽隊は莊嚴勇壮な君ヶ代マーチ（或いは『海行かば』）が吹奏される。

庄市がかけ込んで来る。

庄市 旦那、どうもとんだことで……たつた今、救護所でその話を聞いたんです。

欽蔵 うむ、聞いたか。

庄市 えらい評判です。

加代 あたしが見つけたのよ。

庄市 さうですつてね。あ、あの婆さんは、助かっていますよ。

万歳、万歳。

欽蔵 （『万歳』といふ声に耳をすまし）やい、鉄蔵、あの『万歳』が聞えるか。あの

楽隊が聞えるか。

急に、いくが声をあげて泣き出す。美代も、これにつれて泣く。

庄市 お神<sup>かみ</sup>さん、泣くつて法はないや。名誉の戦死でさあ。

欽蔵 なに、かまふこたあねえ、泣きてえものは泣け〜。けちな涙たあ、わけがちがはあ。おい、お加代、祝盃だ。冷<sup>ひや</sup>でいゝから、一本持つて来い。(胸<sup>むね</sup>が一つぱいだといふことがわかる)

マーチ、万歳の声。

## 青空文庫情報

底本：「岸田國士全集6」岩波書店

1991（平成3）年5月10日発行

底本の親本：「花問答」春陽堂書店

1940（昭和15）年12月22日発行

※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ケ」（区点番号586）を、大振りにつくっています。

入力：kompass

校正：門田裕志

2011年7月6日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 空の悪魔（ラヂオ・ドラマ）

岸田國士

2020年 7月18日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>